

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 6月14日現在

機関番号：12612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26381149

研究課題名(和文)非正規研究者の健康とキャリアに関する実態調査

研究課題名(英文)Effect of precarious employment contracts on researchers' health

研究代表者

鶴ヶ野 しのぶ (Tsurugano, Shinobu)

電気通信大学・保健管理センター・准教授

研究者番号：10359630

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：非正規研究者の健康と就労に関する研究を実施した。大学非常勤講師を対象とした調査の結果、非常勤講師のみで収入を得ている研究者では、常勤職を持つ者と比較して主観的健康感や不安・抑うつ状態、および健康診断の受診率が不良で、いずれの指標でも「専業非常勤であること」は有意な健康リスクとして作用していた。また同調査でのアンケートにより、非常勤講師は雇い止めを恐れるために休暇(疾病、産・育休)を取得できないことや、健康診断の対象外となる、疾病や年金等に対して強い不安を自覚している事が確認された。本研究により非正規研究者の健康不良には不安定雇用に基づく低所得やストレスが関与することが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：A study on the health and working status of precarious researchers was conducted. According to the results of its survey with part-time lecturers, those researchers gaining their income solely as a part-time lecture showed poor self-rated health or more serious psychological distress (SPD) as well as received health check-ups frequency than full-time researchers also working as a part-time lectures. Using logistic regression, we identified a positive association between precarious employment and poor self-rated health and SPD after adjusting for age, sex and work-carriers. This study has revealed that the poor health of non-regular researchers is associated with their stress and low income due to the unstable employment status.

研究分野：産業医学、心身医学

キーワード：非正規雇用 健康格差 健康診断 ストレス 主観的健康感

1. 研究開始当初の背景

わが国の大学や研究機関では、非常勤講師、任期付き研究員等の研究者（以下非正規研究者）として就労する者が増加しており、全大学教員の51.6%（192,739名）に達している（文部科学省「学校基本調査」平成23年）。博士課程修了者は平成3年の大学院重点化計画により著増し就職率は約60%であるが、博士研究者を定期採用する民間企業は10%に満たず大半は非正規研究者として低賃金の就労に従事している。

非正規労働者の健康については、正規雇用者と比べ総死亡率が高いことや（Kivimäki M et al. 2003）、精神的健康状態の不良（Tsurugano S et al. 2011）、主観的健康感の不良（Nishikitani M et al. 2012）、健康診断未受診のリスクが高い（Inoue M et al. 2011）などが報告されている。

研究教育の現場では、非正規研究者への業務負担は高まっているものの、専任教員採用においてそれらのキャリアは十分評価されておらず、低収入や雇用継続のストレスから心身の健康問題を生じやすい可能性が示唆されている（Nakao M, et al, 2006）。社会疫学上、高学歴者の健康リスクは低いとされるが（WHO, 2007）、わが国の非正規高学歴者の健康に関する調査はほとんどなく、不安定雇用が健康やキャリアへ及ぼす影響は明らかではない。

2. 研究の目的

非正規研究者（大学非常勤講師、任期付き研究員等）の健康と就労の実態を調査し、非正規雇用が高学歴者の健康やキャリアへ及ぼす影響を明らかにする。

3. 研究の方法

非正規研究者の就労や健康に関連する文献収集とレビュー作成ののち、①既存の非正規研究者の就労調査を用いた健康問題に関する記述の抽出を行う（質的研究）。さらに、②非正規研究者を対象とした個票の健康調査を行い、不安定雇用と健康との関連を明らかにする（疫学研究）。

4. 研究成果

<研究①>

非正規研究者の集団として代表性が高いと考えられる大学非常勤講師を対象に大都市圏の非常勤講師組合が実施した就労調査を用いて「健康」に関する記述を抽出した。それらの結果、非常勤講師や無給の研究員等は、(1) 健康管理の対象外となりやすい（職域の健康診断、学内診療所が利用できない等）、(2) 子供を産み育てづらい（産休・育休制度の不備、出産⇒失業となる不安が大きい）、(3) 年金や健康保険料等の社会保障費が大きな経済的不安となっていることが示された。

<研究②>

研究①で得られた結果を元に、非常勤講師組合の協力を得て、主に組合員を泰粗油とした個票による健康調査を実施し、健康状況と、それらに非正規雇用が及ぼす影響を数量的に調べた。その結果、非常勤講師のうち「専業非常勤（他に常勤先を持たない非正規研究者）」では主観的健康感の不良、不安・抑うつ状態（K6質問票）、および過去1年間の健康診断の受診割合が「兼業非常勤（大学等の本務先を持つ者）」と比較して不良であることが示された（図1）。またこれらの健康指標に、「専業非常勤であること」が及ぼすリスクをロジスティック回帰分析によって調べたところ、いずれの指標でも専業非常勤であることは有意なリスクとして作用していることが明らかになった（図2）。

さらに同調査で実施した自由記載において非常勤講師は研究①と同様に、1)雇止めを恐れて疾病や産・育休のための休暇を取得できない（出産をあきらめる事を含む）、2)職場の健康診断の対象外となる、3)医療保険や年金等の社会保障の経済的負担が大きい、4)研究継続のための環境が乏しい、などの記述が抽出された。

①②の結果より、非正規研究者の健康状況は不良であり、健康指標の悪さには非正規雇用に起因する低所得、社会保障の乏しさによる将来の健康不安、および長期にわたって正規への転換機会がない心理的ストレスが強く関与することが示された。

正規雇用者と同様の業務を行っても処遇が低く、長期にわたって正規への転換機会がない就労環境が健康状況の悪さに関連している可能性が考えられる。高学歴者のような、不健康が可視化されにくい労働者にも注目し、健康支援を整備していくことが重要である。

図1. 非常勤講師の就労状況ごとの健康比較 (n=263)

	総数 (n = 263)	専業非常勤 (n = 193)	兼業非常勤 (n = 70)	P-Value
	No (%)	No (%)	No (%)	
主観的健康感の不良	55 (20.9)	47 (24.4)	8 (11.6)	0.03
自覚症状あり	113 (42.9)	90 (46.6)	23 (32.9)	0.0496
自覚症状数 (mean ±SD)	1.8 (3.0)	2.1 (3.1)	1.2 (2.5)	0.03
悩みやストレスあり	191 (72.6)	145 (76.3)	46 (67.6)	0.20
不安・抑うつ状態*	84 (31.9)	69 (35.8)	15 (21.4)	0.048
健康診断の未受診	84 (31.9)	70 (36.3)	14 (20.0)	0.02

\*「過去1月のこころの状態」(K6質問票)の総点9点以上であった者の割合。  
雇用形態間の比較はχ<sup>2</sup>検定またはWilcoxonの順位相検定による。

図2. 就労状況別にみた各健康指標における専業非常勤のオッズ比と95%信頼区間 (n=263)

	Crude (95%CI)	Model1 <sup>†</sup> (95%CI)	Model2 <sup>‡</sup> (95%CI)
主観的健康感の不良	2.45 (1.10, 5.50)	2.48 (1.06, 5.85)	2.00 (0.82, 4.89)
自覚症状あり	1.79 (1.01, 3.17)	1.86 (1.00, 3.44)	1.77 (0.94, 3.36)
悩みやストレスあり	1.54 (0.84, 2.83)	1.26 (0.63, 2.50)	1.08 (0.53, 2.23)
不安・ストレス状態 <sup>‡</sup>	1.96 (1.04, 3.77)	2.20 (1.07, 4.53)	1.91 (0.90, 4.05)
健康診断の未受診	2.28 (1.18, 4.38)	2.31 (1.13, 4.72)	1.99 (0.95, 4.19)

OR: Odds Ratio. CI: Confidence Interval. 専業非常勤: 非常勤講師のうち、大学または他職の常勤職ではない者。兼業非常勤: 非常勤講師のうち、大学や他職の常勤職を持つか、年金受給者である者。

<sup>†</sup>年齢、性、非常勤講師歴を調整したロジスティック回帰分析。<sup>‡</sup>年齢、性、非常勤講師歴、世帯所得を調整したロジスティック回帰分析(いずれも常勤兼職をReferenceとする)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 錦谷まりこ、井上まり子、鶴ヶ野しのぶ. 学術研究からの少子化対策—非正規雇用と結婚、妊娠出産、育児. 日本衛生学雑誌. 査読有, 73, 2018, pp. 215-224.
- ② Nishikitani M, Nakao M, Tsurugano S, Inoue M, Yano E. Relationship between menstruation status and work conditions in Japan. Biopsychosoc Med. 査読有, 2017, doi: 10.1186/s13030-017-0112-x. 26/11, 10-.
- ③ Mariko Inoue, Mariko Nishikitani, Shinobu Tsurugano. Non-regular workers and their health among women in Japan. Industrial Health, 査読有 .54(6), 2016 54(6):pp. 521-527.
- ④ Kachi Y, Inoue M, Nishikitani M, Yano E. Differences in self-rated health by employment contract and household structure among Japanese employees: a nationwide cross-sectional study. J Occup Health. 査読有, 2014, 56(5):pp.339-46. Epub 2014 Sep 17.

[学会発表] (計10件)

- ① 鶴ヶ野しのぶ. 大学非正規教員の健康—非常勤講師健康調査より—. 第58回日本心身医学会総会. 2017/06/16
- ② 錦谷まりこ、鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、福田吉治、矢野栄二. 非正規雇用の健康状態と職業特性. 第90回日本産業衛生学会. 2017/05/12
- ③ 鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、井上まり子、福田吉治、矢野栄二. 大学非正規教員の就労と健康—非常勤講師健康調査から—. 第90回日本産業衛生学会. 2017/05/12.
- ④ 鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、井上まり子、福田吉治、矢野栄二. 大学非正規教員の就労と健康—非常勤講師健康調査から—. 第87回日本衛生学会学術総会. 2017/03/27.
- ⑤ 鶴ヶ野しのぶ. 非正規研究者の健康状況—非常勤講師健康調査より—. 第89回日本産業衛生学会 非正規雇用研究会. 2016/05.
- ⑥ 鶴ヶ野しのぶ. 非正規研究者の健康状況に関する調査—非常勤講師アンケートから—. 第56回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 2015/06/27.
- ⑦ 鶴ヶ野しのぶ、錦谷まりこ、井上まり

子、矢野栄二. 工学系大学の女性研究者の現状と産業保健上の課題. 第88回日本産業衛生学会. 2015/05/14.

- ⑧ 錦谷まりこ、鶴ヶ野しのぶ、井上まり子、矢野英二. 高学歴女性の雇用形態と健康—職種を含めた解析—. 第73回日本公衆衛生学会. 2014/11/06.
- ⑨ 鶴ヶ野しのぶ. 労働者のメンタルヘルスの年次比較—国民生活基礎調査から—. 第55回日本心身医学会総会. 2014/06/07.
- ⑩ 鶴ヶ野しのぶ. 非正規研究者の健康状況に関する調査—非常勤講師アンケートから—. 第87回日本産業衛生学会. 2014/05/22.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等:

出版物による社会への研究結果の公表:

- ① 鶴ヶ野しのぶ. 非正規雇用労働者が直面する健康問題を重視し、リスク解消のために調査・研究活動を行う. 月刊新医療, 42 (7) pp.184-185, 2015.
- ② 鶴ヶ野しのぶ. 健康格差 雇用と所得の差が命の差につながる. 週刊東洋経済, 第6667号, pp.44-49. 2016.
- ③ 井上まりこ. くらしナビ ライフスタイル「非正規、健康格差も深刻」毎日新聞. 2016年10月10日.
- ④ 鶴ヶ野しのぶ. 非正規と正社員 分断される職場. 若手にリスク負わせ研究力しばむ. AERA, 31(8), pp.30-31, 2018年2月26日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鶴ヶ野しのぶ (TSURUGANO, Shinobu)  
電気通信大学・保健管理センター・准教授  
研究者番号：10359630

(2) 研究分担者

錦谷まりこ (NISHIKITANI, Mariko)  
九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・准教授  
研究者番号：40327333

井上まりこ (INOUE, Mariko)  
帝京大学・大学院公衆衛生学研究科・准教授  
研究者番号：20508048

矢野英二 (YANO Eiji)  
帝京大学・大学院公衆衛生学研究科・教授  
研究者番号：50114690

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )